

令和7年度第2回岡崎市環境審議会 会議録

1 開催日時

令和7年7月25日（金）午後2時から午後4時まで

2 開催場所

岡崎市役所福祉会館2階 201号室

3 内容

- (1) 事業概要説明
- (2) 脱炭素関連施設 視察

4 出席委員の氏名（五十音順）

石川裕子、今村ひとみ、岩月幹雄、河江喜久代、川田奈穂子、香坂玲、
阪口奈央、佐谷智、杉浦清、杉山範子、鈴木雅良、鶴田和男、鳥山紀幸、
橋本啓史、吉永美香、渡邊幹男

5 説明のために出席した職員の職氏名

環境部長：加藤元

環境部次長兼ゼロカーボンシティ推進課長：木村敏弘

ゼロカーボンシティ推進課副課長：植村信幸

ゼロカーボンシティ推進課：平岩靖弘、武藤康弘

6 出席した事務局の職氏名

課長：山田章博、副課長：神谷雅範、環境政策係長：中村亮太、主事：生田総
司、主事：荒井千咲子

7 議事要旨

(1) 事業概要説明

ゼロカーボンシティ推進課長から岡崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を説明した後、質疑応答がなされた。

（杉浦委員）

表の見方を教えて欲しい。2030年に32%の削減率と表しているが、前年比なのか、若しくは基準値である2013年度比なのか。

（ゼロカーボンシティ推進課）

削減率等のパーセンテージは全て2013年度比である。

（杉浦委員）

その内容を基に資料を見ると、2030年度に目標としていた削減率32%を昨年度既に達成したと解釈しても良いか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

その通りである。現状維持できれば、2030年度に目標として掲げたノルマは達成できると思われる。

(杉浦委員)

削減としての数値は出しており、産業活動の活発化で排出が見込まれる分も踏まえて削減していけば、2030年の目標も達成できるという考え方で良いか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

その考え方で良い。ただ、国全体としては2050年に0%という一つ先の目標がある。2030年だけを見ていると次の目標に後れを取ることも懸念されるので、先も視野に入れながら手綱を締めたり緩めたりする必要があると考える。

(杉浦委員)

事務事業編は、主に公共事業を対象とした取組になっていると思うが、行政が行った取組やそれに伴う数値を、市内の民間事業者に対して周知活動も行っているのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

まだそこまではできていない。ただ、目標としては市役所が市内事業者のモデル・見本となることが使命だと思う。今後は周知啓発活動に力を入れていく。

(香坂委員)

森林吸収という話があった。岡崎市の大半は民有林であるが、民有林の管理が行き届いていない場所の資源管理等を市の今後のビジョンと絡めていくということで良かったか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

民有林については所有権の問題や、木材が財産ということもあり、整理できていない。市の担当部局である中山間政策課と一緒に課題をどのように解決すべきか、何から手を付けるべきかを議論し始めたところである。

(香坂委員)

豊田市でも、色々と政策を行っているので参考にしていきたい。林野庁でも生物多様性のガイドラインを発表しているので、そちらも確認してもらいながらゼロカーボンと絡められたら良いと思う。

(ゼロカーボンシティ推進課)

承知した。

(佐谷委員)

環境部局だけではなく、道路部局等他部局との調整も必要ではあるが、商

店街の街路樹をすべて伐採して、太陽光で自家発電できるようなミストの出る街灯にする等の対応をしてはどうか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

検討していく。

(吉永委員)

資料の表に2021年～2024年の各年で行った施策や工夫を記載していくと、効果がどれだけあったかや、具体的な策が見えて良い。会議室のLED化等まだコスト面で対応できそうな部分はあると思う。職員の意識向上も大切だが、我慢による省エネは時代ではなくなっている。例えば人感センサーによる消灯や会議終了時間で自動消灯されるなども、比較的低コストで対応ができると思うので、検討していただきたい。

(ゼロカーボンシティ推進課)

計画の方に反映できるように検討していく。

(2) 脱炭素関連施設 視察

脱炭素関連施設として、岡崎市中心クリーンセンターの視察を行った。

会議資料

令和7年度第2回岡崎市環境審議会次第

岡崎市環境審議会委員名簿、配席図

議題1 岡崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の改定について